

第 39 回合志市地域公共交通協議会 【会議録要旨】

〔日時〕平成 28 年 11 月 22 日（火）午前 10 時 00 分～

〔場所〕合志市役所 合志庁舎 2 階大会議室

〔出席者〕藤井勝公委員、緒方博詞委員、寺本秀信委員、森邦弘委員、藤園直美委員、西郷節夫委員、塚本秀典委員、高山祐二郎委員、山邊尚幸委員、坂本高繁委員、坂本昭文委員、野田徹志委員、山野一平委員、小森田政憲委員、富田廣志委員、片岡正和委員、福田赴文委員、小原勝委員、田上英昭委員、中村公彦委員、吉田幸広委員、溝上章志委員、石原政孝委員、宮崎真司委員、田中哲子委員、田尻亮司委員、濱田善也委員

〔代理出席〕熊本県北広域本部 福田恭久維持管理課長

〔欠席者〕重光重信委員、島川浩一委員、林省吾委員

〔事務局〕大茂企画課長、牧野課長補佐、吉田主査

〔議題〕

報告及び協議事項

- (1) 平成 28 年度コミュニティバス運行実績中間報告について
- (2) 合志・西合志庁舎間バス路線について
- (3) 平成 29 年度事業計画（案）について
- (4) 合志市コミュニティバスクーポン券付き回数券（150 円・80 円について）

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

報告事項（1）平成 28 年度コミュニティバス運行実績中間報告について
～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

溝上章志委員：コミュニティバスは色んな原因で昨年の実績と比べると利用者は減っているが、乗り合いタクシーはそれほど減っていない。ましてや 8 月は昨年より増加している。これは乗り合いタクシーの持っている特徴などあるのか。また増加の感触があれば教えていただきたい。

山野一平委員：特にデマンドで運行している植木線については 4 月の地震以降、目に見えて利用客が減少している。乗合いタクシー合生・上生線分については、極端に減少してはいないが、地震以降顕著に利用者が減っていることは確実である。

溝上章志委員：減っているということだが、この資料数値からコミュニティバスに比べ乗り合いタクシーはそれほど減っていないが、路

線ごとで違うということか。

事務局：まず、このグラフの数値の対前年比の平成 27 年度前半期は利用者が減っていた時期でもあり、平成 27 年 10 月からの利用状況を見てもらうと利用客がある程度増えてきている。これは料金改定など各戸配布での全世帯周知を行ったため、利用客が伸びたと推測している。平成 27 年度前半期と比較すると変わらないように見えるが、平成 27 年度後半期と比べると下がっているのが見てとれると思う。

溝上章志委員：私が言いたいのは、乗り合いタクシーの持っている何か強みみたいなものが発揮されているのかと思ったが。また、乗り合いタクシーは、一定の固定客をちゃんと掴んでいるので、今回の地震の影響あってもちゃんと客は乗ってくれていることが現れているのか。乗り合いタクシーのグラフだが、他のコミュニティバスに比べて 4 月は地震の起きた月でかなり下がっているのは分かるが、その後は下がっていない。ましてや 8 月は昨年より多い。そのあたりはどうか。

事務局：平成 27 年 10 月から利用者が増えている。その部分と比べると減っているということになる。

溝上章志委員：言っている意味が分からない。先ほどの路線の実態としては利用者が減っている路線もあると思うが、合計としては下がったように見えない。下がっていない理由を聞いている。乗り合いタクシーはすごくいい乗り物で今回のような地震があっても乗ってくれている。そういう部分を引き出してもっと調べてみるといい。バスは下がっている。どうしても遅延が原因だと思う。タクシーは遅れないし確実に乗ってくれるのならば、今後、地域にあわせたサービスを検討できるのでそのあたりも調べていただくといいと思う。

高山祐二郎委員：レターバス、循環バス、乗り合いタクシーの話が出ているが、利用者の特性として高齢者が多いということで、理解しておいていいか。

事務局：はい。

藤井勝公会長：現在、高齢者の事故が増えている。免許証返納など取り組みなどあると思うが、熊本県警としての動きなど教えていただければと思う。

吉田幸広委員：昨今、全国的に高齢者の重大事故が多発している。件数がさほど変わっていないが、高齢者の重大事故が起こるとマスコミ関係がピックアップしている状況もある。その中で私たちも高齢者の方々に対して、講習会をより多く考えており、社会福祉協議会が健康講習会を各地でやっている。そこに参加

させていただき、その中で高齢者人口の流れや免許証返納の推進などを行っている。出来たら委員の皆さんも地元で促進していただけたらありがたいと思う。

藤井勝公会長：市も公共交通が本当に充実し、極め細やかにしていけないと免許証返納に繋がっていないため、伺ったところだった。

塚本秀典委員：免許証返納の話だが、バス全体熊本県内で地震以降かなりの利用者が減っているのは確実である。というのは、遅れがかなり激しく1時間以上またはそれ以上遅れる場合もあった。現在は道路もかなり復旧してきたので、遅れは解消してきていると思う。レターバスの資料を見て分かると思うが、去年はドアが閉められないくらい満員の状態があった。利用して分かるが、今年はそれほど多くなかった。車内環境としては、やはりバス離れが進んでいることがよく分かる。公共交通全体としては一時的に自動車にシフトしている状況ではないかと推測している。また熊本全体で人の動きが変わっているのが見受けられ、自動車普及、利用が増えると、道路渋滞や先ほどの高齢者の事故が心配になる。そういう中、公共交通を考える上で、免許証を返納された方に対し、どの様に対応していくかが非常に重要になってくる。また免許証を返納された方の相談窓口を強化していただきたい。非常にバス離れが進んでいる中で、今後この数値は注意してみて行きたいと思う。その後、乗客が戻らない状況が続けば、何らかの対策をしていかないといけないと考えている。

藤井勝公会長：今後注目していきたい。他に意見、質問はないか。

各委員：特になし

報告事項（2）合志・西合志庁舎間バス路線について

～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：事務局から説明の中であったように、ここ数年で合志庁舎統合や合志庁舎前の竹迫開発もある。この路線については、本協議会前まで作業部会で色々提案いただいてきたが、この路線の今後について、政策監である濱田委員から説明させる。

濱田善也委員：今後の合志・西合志庁舎間バス路線だが、事務局から説明があったとおり、西合志・合志庁舎間を結ぶということが基本的考えである。現在分庁だが、現計画では早ければ再来年5月に西合志庁舎を合志庁舎に統合させることとなっている。それからもう1つ、竹迫の開発だが、来年11月末ぐらいには仮オープンすることで事業が進んでいる。中には、ホームセ

ンター、飲食店街、本屋、温泉施設、ホテル、医療機関など入る予定。ただ、この開発の進捗を見ておく必要があると考えている。現在約 12 ヘクタールの造成工事が始まっている。順調にいけば来秋には仮オープン予定だが、人、自動車の流れなどを勘案しながら、再度この路線について検討し直そうと考えている。というのも、試行運行させるために、だいたい半年で初期経費等入れて 500 万円程度かかるため、バス規模、本数、などをもっと様々な要件を深めた上で予算化した方がいいのではないかと判断している。今レターバスは合志市を 1 周するバスになっているが、時間がかかっている路線のため、今回の路線は東西を結ぶということは、非常にバスの使い勝手や熊本電鉄の御代志駅があるので、乗換えとしては、うまい具合に、生かしていけるという考えを持っている。ただ、しばらくは、もう少し議論の場をいただきたい。と政策推進本部会議での結果となったところで、今後また新たな案を皆様委員の意見を聞いていき進めたいと考えている。

藤井勝公会長：今説明があったように、再度この路線の議論を深めて進めたいと考えている。

塚本秀典委員：現在レターバスが合志庁舎に乗り入れているので、少し路線変更など、商業施設に寄せるなど考えていってもいいと思う。それと、1 番気になるのは、商業施設が出来た際、渋滞が予測されるが、この渋滞対策について何かあるのか具体的に説明してほしい。

濱田善也委員：今までの流れだが、竹迫地区の開発は地権者 33 人の区画整理事業組合で行われている。開発での警察協議の中で、基本的な部分として、現在光の森に一極集中している。特に土・日曜日は永江団地など、市外各地ですごい渋滞が起きている。逆に竹迫地区に商業施設が出来ることによって、その車の流れを分散するような効果があるのではないかと協議している。もう 1 つ、渋滞緩和では、道路整備という話があがる。大津・西合志線は東西を走っており朝夕の渋滞緩和で大津・西合志線の 3 車線化も計画されていると聞いている。合志市としても、県に対して、4 車線化を要望していくことを考えている。現在、合志市でも復興計画を立てている。幹線道路として非常に東西路線が弱い。また南北路線の国道 387 号線 1 本しかない状況。渋滞解消を考えながら、国、県に働きかけを行っていくスタンスで考えている。また、商業施設が出来た後の実際の車の流れがどうなっていくか分からない部分もある。今後も幹線道路の整備を進めていく形で取り組んでいき

たい。

藤井勝公会長：他に意見、質問はないか。

西郷節夫委員：今回の庁舎統合だが、今までどのくらいの人数が西合志庁舎を利用していただけたのか。また、新しい商業施設の対象者が見えておらず、例えば若者か高齢者かによってかなり変わってくると思う。路線を考える上で、利用施設に行っても帰りに何時間も待たなければならないなど、高齢者にとっては大変。色んな人の流れの分析を行い、適切な路線を考えていただきたい。

藤井勝公会長：貴重な意見。今後検討の中で是非色んな意見など含めて検討していきたい。

藤井勝公会長：ないようであれば、次の議題へ移る。他に意見等はないか。

各委員：特になし

協議事項（３）平成 29 年度事業計画（案）について

～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

森邦弘委員：バスの乗降の際の介助や道案内、バスの乗り案内など行ってほしい。おでかけサポーターとは。

事務局：コミュニティバスの講座を受けていただき登録していただいた方がサポーターとなっていていただき、主にコミュニティバスの周知・啓発また乗り継ぎ案内、バスの乗り案内などを乗客に対してサポートする制度。

西郷節夫委員：今年度は何か取り組まれたか。

事務局：今年度は取り組んでいない。

藤井勝公会長：他に意見等はないか。ないようであれば、承認を頂きたいが如何か。

各委員：承認

協議事項（４）合志市コミュニティバスクーポン券付き回数券（150 円・80 円について）

～事務局から資料を説明～

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

西郷節夫委員：回数券の利用状況はどうなっているか。

事務局：利用状況については、各コミュニティバス運行事業者様から月報で上がってきている。本日は集計等していないため提示できない。

小原勝委員：新たに 150 円、80 円券ということだが、従来の 100 円、50 円券の取り扱いについてはどうなるのか。

事務局：100 円、50 円券については販売を停止するところ。使用については、今後も使っていただいて問題ない。

藤井勝公会長：他に何でもいいがないか。

吉田幸広委員：せっかくの機会なので。今回の竹迫開発で、新たに信号の設置を予定している。先ほど渋滞の話があった。懸念していることは、現時点でも渋滞している中で更に信号が増えることは更なる渋滞の可能性がある。渋滞に対して色々対策しているところだが、現実問題として信号設置に伴い車の流れが変わる。実際、信号設置後にしか分からない部分もあるが、当分の間は渋滞が更に増えるということで委員の皆様には認識していただきたい。光の森の渋滞での苦情対応の中で、時間付与数を変化することで、緩和されたりすることもある。しかし、信号は渋滞を起こすものだとすることを認識していただきたい。信号で時間を制御することで、片方が良くなれば片方が悪くなるといった事例もある。現場を良く見て、信号の時間調整も 1 つの策ではあるが、総合的に難しい状況。警察としては最適な信号設置を図っていくが、渋滞は覚悟した上で市民の皆様にも理解してもらいたい。

藤井勝公会長：これだけの車社会である。皆が喜ぶ規制は出来ないため、今の発言のとおりご理解をいただきたい。

山野一平委員：話がずれるが、益城町にも事業所があり、益城町では 65 歳以上の高齢者や障がい者の方に 1 枚 500 円の 10 枚綴りが 3,000 円のタクシーチケットというタクシー券が配布されている。利用される方にとっては非常に便利ということで、チケット利用者は増えている。是非こういうチケット導入も考えていただきたい。

田中哲子委員：おでかけサポーターだが、私のボランティア協議会でも是非多くの方に受けていただき、サポートできるのではないかと考える。

藤井勝公会長：他に意見等はないか。ないようであれば、承認を頂きたいが如何か。

各委員：承認

その他について

藤井勝公会長：何か意見、質問はないか。

塚本秀典委員：セミコン通勤バスについてですが、利用状況はかなり上がっ

ているが、今後本格運行になる予定なのか。

宮崎真司委員：セミコン通勤バスは、セミコンの企業連と合志市、菊陽町で対策協議会を立ち上げ、県、市、町から補助金をいただき協議会からも捻出し、渋滞対策のため、通勤バスを2年間試行運行している。今後は本格運行に移行したいと考えており、利用者増加のため、誘導策など行っているが、利用者が伸び悩んでいる状況。セミコンテクノパーク企業だけで全額をバス運行していくことは難しいが、各会社の了解を得ながら、今後も続けていく方向で考えている。

塚本秀典委員：交通渋滞緩和策としては、この取り組みは有効だと考える。先ほど渋滞対策で4車線化の話があったが、インフラ整備より、今後は公共交通にシフトしていただきたい。道路は車が増える一方。大津町、熊本市など広域的協力して、通勤時間帯だけでも、合い乗りをするなど策を考えていただきたい。また、公共交通に対する環境も悪くなっているため、マナーアップの啓発や安全対策も今後検討していただきたい。

溝上章志委員：クマモンのICカードが普及している。毎年合志市のコミュニティバスで乗降調査を行っているが、このICカードを利用すればより多くの乗降データが取れると思うので、是非活用していただきたい。最近ICカードでは、タクシーでも車載機を付ければ利用できるなど、高齢者が増える中で公共交通の利用環境を作っていく事が大事。また、セミコン通勤バスの話したが、私も以前携わっていた。当時景気がいいときは派遣社員が増えていたため、渋滞対策のため試行錯誤一生懸命やっていた。ただ、景気が悪くなれば雇用も減り通勤者が少なくなり渋滞がなくなったということで、一度辞めた経緯もある。再度また景気が回復してきた際に、始めたという経緯がある。企業でも積極的社会的流れを引っ張っていただきたい。合志市は1人1人がどこからどこまでどう利用したかが分かる規模。そこまで踏み込んだ調査、分析を行うべき。またその分析結果に合うような公共交通を作っていないならばならない。通り一遍等の整備では乗客は増えないため、今後プロモーション関係に予算を持っていただきたい。また今回の地震で公共交通から自動車にシフトしてしまった人をどう呼戻すか。一度シフトするとなかなか戻って来ない。公共交通利用者はこのままだと減っていく一方なのでここで、もっと努力をお願いしたい。

藤井勝公会長：他に意見等はないか。

各委員：特になし